

次の問 2，問 3 については 1 問を選択し，答案用紙の選択欄の問題番号を○印で囲んで解答してください。

なお，2 問とも○印で囲んだ場合は，問 2 について採点します。

問 2 企業の財務体質の改善に関する次の記述を読んで，設問 1～4 に答えよ。

R 社は，10 年前に創業した電子部品の製造・販売会社である。仕入れた原材料を在庫にもち，それらを加工し組み立てて，電子部品を製造する。R 社は，売上を全て売掛金に計上している。

〔経営状況と戦略〕

R 社は，技術力を生かして開発した画期的な新製品を投入して，競合のない新しい市場を創造し，新規顧客を開拓することによって，創業以来，売上と利益を順調に伸ばしてきた。2013 年度は，需要の増大に対応するために，積極的な投資を行い，工場などの設備を増強した。これらの投資の資金は，営業活動から生み出されるキャッシュだけでなく，銀行からの借入れによって調達したが，借入れはかなりの額に達しており，これ以上増やすことは難しい。また，ここ数年で大幅に増えた社員数，組織数，設備数などに社内の管理体制が追い付いておらず，改善が必要である。一方，R 社の市場は他社にとっても魅力的なもので，将来，他社が技術革新を進めて，R 社の競合となることが予想される。

このような状況を受け，R 社の経営陣は，財務体質の改善に取り組むことにした。財務体質の改善には，社内の管理体制を強化する必要がある。そこで，財務部長をリーダーとした財務体質改善プロジェクト（以下，プロジェクトという）を組織した。経営企画部の S 君もプロジェクトメンバーに選ばれた。

〔S 君が学んだこと〕

S 君は，プロジェクトに参加するに当たって，自分の知識を深めるために，キャッシュフローや財務諸表について学習した。次の記述は，S 君が学んだことの一部である。

“取引の中には，キャッシュフロー計算書に反映されるが，損益計算書には反映されないものがある。また，その逆もある。理由は，キャッシュフロー計算書は現金主義に基づいているが，損益計算書は 主義に基づいているからである。黒字倒産は， はあるのに， が不足して起こる倒産である。”

〔財務諸表とその分析結果〕

プロジェクトでは、まず、R社の財務体質の現状を把握するために、直近の財務諸表を確認し、それらの分析を行った。業界標準との比較などによる分析の結果、効率性と安全性に改善の余地があることが分かった。R社の貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、及び効率性と安全性に関する主な経営分析指標は、表1～5のとおりである。

表1 貸借対照表

単位 百万円

区分	勘定科目	2013年度 末時点	対前 年比	区分	勘定科目	2013年度 末時点	対前 年比
流動資産		9,000	112%	流動負債		14,000	112%
	現金及び預金	2,500	103%		買掛金	1,000	110%
	売掛金	4,000	121%		短期借入金	13,000	112%
	棚卸資産 ¹⁾	2,500	109%	固定負債		2,000	112%
固定資産		9,000	112%		長期借入金	2,000	112%
	有形固定資産	8,500	112%	負債合計		16,000	112%
	無形固定資産	400	111%		資本金	300	100%
	投資その他の資産	100	100%		資本剰余金	300	100%
					利益剰余金	1,400	119%
				純資産合計		2,000	112%
資産合計		18,000	112%	負債・純資産合計		18,000	112%

注¹⁾ 棚卸資産：製品、仕掛品、原材料

表2 損益計算書

単位 百万円

勘定科目	2013年度	対前年比
売上高	16,000	110%
売上原価	11,000	109%
売上総利益	5,000	114%
販売費・一般管理費	4,000	114%
営業利益	1,000	111%
営業外収益	300	107%
営業外費用	200	105%
経常利益	1,100	111%
特別損益	▲30	100%
税引前当期純利益	1,070	111%
法人税など	430	110%
当期純利益	640	112%

表3 キャッシュフロー計算書

単位 百万円

	2013年度
I 営業活動によるキャッシュフロー	省略
II 投資活動によるキャッシュフロー	
III 財務活動によるキャッシュフロー	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0
V 現金及び現金同等物の増加額	70
VI 現金及び現金同等物の期首残高	2,430
VII 現金及び現金同等物の期末残高	2,500

表4 株主資本等変動計算書

		単位 百万円			
		2013年度株主資本			
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	合計
期首残高		300	300	1,180	1,780
当期 変動額	剰余金の配当			▲420	▲420
	当期純利益			640	640
	当期変動額合計			220	220
期末残高		300	300	1,400	2,000

表5 主な経営分析指標

効率性に関する指標	数値
総資産回転日数	411日
売上債権回転日数	91日
棚卸資産回転日数	83日
仕入債務回転日数	33日
安全性に関する指標	数値
自己資本比率	11%
流動比率	64%
固定比率	450%

〔財務体質の改善〕

プロジェクトでは、R社の財務諸表の分析結果を基に、キャッシュフローの観点からの財務体質改善策として、次のA～C案を提案した。

A案：売上債権回転日数を減らすために、売上債権を減らす。この結果、営業活動によるキャッシュフローが増える。

B案：棚卸資産回転日数を減らすために、を導入して棚卸資産を減らす。この結果、営業活動によるキャッシュフローが増える。

C案：

A案に関連して、S君は、①損益計算書と貸借対照表を照らし合わせた結果、2013年度におけるR社の売上代金の回収に、前年度と比べて問題があることを発見した。財務部長は、営業部に改善指示を出した。

さらに、プロジェクトでは、状況に応じて選択可能な具体案として、2014年度は純利益が2013年度の倍以上出る予想だが、自己資本比率を上げるために、②剰余金の配当を2013年度と同じ額に据え置くことを提案した。

設問1 〔経営状況と戦略〕について、R社のこれまでの経営戦略を、解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

ア 市場浸透戦略

イ 集中戦略

ウ ブランド戦略

エ ブルーオーシャン戦略

設問 2 本文中の ～ に入れる適切な字句を解答群の中から選
び、記号で答えよ。

解答群

ア 売上 イ 原価 ウ 現金 エ 在庫 オ 三現
カ 仕入 キ 発生 ク 費用 ケ 保守 コ 利益

設問 3 表 3 中の営業活動によるキャッシュフロー、投資活動によるキャッシュフ
ロー、及び財務活動によるキャッシュフローは、〔経営状況と戦略〕の記述の活動
から判断すると、それぞれプラスかそれともマイナスか。+又は-の記号で答
えよ。

設問 4 〔財務体質の改善〕について、(1)～(3)に答えよ。

(1) 本文中の , に入れる適切な字句を解答群の中から
選び、記号で答えよ。

dに関する解答群

ア ジャストインタイム方式 イ フランチャイズチェーン
ウ レイバースケジューリング エ ワークシェアリング

eに関する解答群

ア 固定比率を下げるために、長期借入金を増やす。この結果、財務活動
によるキャッシュフローが増える。
イ 仕入債務回転日数を増やすために、買掛債権の支払を遅らせる。この
結果、営業活動によるキャッシュフローが増える。
ウ 総資産回転日数を減らすために、新規株式を発行して増資を行う。こ
の結果、投資活動によるキャッシュフローが増える。
エ 流動比率を上げるために、償還期限 5 年の社債を発行する。この結果、
投資活動によるキャッシュフローが増える。

(2) 本文中の下線①について、S 君が問題があると考えた根拠を、表 1 及び表 2
中の勘定科目名を一つずつ用いて、30 字以内で述べよ。

(3) 本文中の下線②によって自己資本比率が改善される理由を、表 4 を参考に、
表 1 中の勘定科目名を用いて、20 字以内で述べよ。